

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

# 西部の国語の未来へバトンをつなぐ



令和元年7月発行  
西部教育事務所

6月20日(木)に第1回国語科授業づくり講座「授業研究会」が大方中学校で開催されました。5月16日(木)に開催された「教材研究会」を受けて、授業づくりを再考し提案された「第1回授業研究会」の様子を紹介します。



西部管内の  
講座関係のHP

【提案内容】中学校2年「お気に入りの短歌について鑑賞し、考えを伝え合おう」

～言葉の使い方や表現の工夫、その効果について考える～  
(教材名:「新しい短歌のために・短歌を味わう」2年光村図書)

【授業者】 澤近 史拓 教諭 (黒潮町立大方中学校)

## ①主体的な学びへつなげる課題設定

### 目指す状態

- 一つ一つの言葉に着目させ語感を磨き、語彙を豊かにする。
- 深めた考えを表現する力をつける。

### 授業の提案

- ①主体的な学びにつながる課題設定の在り方
- ②付けたい力につながる単元構想・本時の学習活動

### 【授業の提案】

単元を通した課題として、「お気に入りの短歌について鑑賞し、友達にその短歌の良さや価値を伝える」ということを設定した。

単元の導入で課題意識を持たせるために「お気に入りの短歌の鑑賞文を書く」活動を設定していたが、前回の「教材研究会」での学びや生徒の現状を踏まえて、まずは「筆者が取り上げている短歌についての鑑賞文を書く」活動に変更した。筆者が取り上げている短歌について鑑賞文を書き、筆者の鑑賞文と比較させ、自分の短歌の読み取りや鑑賞文を書く際の表現に生かすことができる力を身に付けさせることとした。

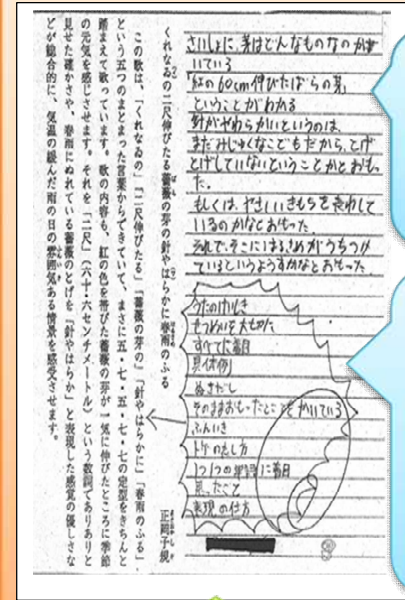
その際、導入で「鑑賞文を書くことは難しい」「どのように書けば作品の魅力が伝えられるのか」という課題意識を持たせ、以下のことを生徒から引き出したいと考えた。

- ・短歌のよさや価値等を伝えるためには、どのような言葉や表現に着目すればよいか。
- ・筆者の鑑賞文を参考に、表現の工夫や効果をどのように捉えて表現すればよいか。

以上のことを踏まえて、筆者と自分の鑑賞文を比較して「自分の表現に生かしたい」というめあての設定につなげる。



### 【ワークノートに見られた記述】



～before(前時)～  
最初に、短歌から自分なりにイメージしたことを記入し、鑑賞することの難しさを実感させる。

～after(本時)～  
筆者の鑑賞文と比較し、筆者の着眼点や表現の仕方、工夫点について全体で共有し、その中から自分が取り入れたいことを記入し、鑑賞文の加筆・修正につなげる。

## ②付けたい力につながる単元構想・本時の学習活動

### 【単元構想】

○筆者の鑑賞文の書き方や表現の仕方、言葉の捉え方について、短歌と鑑賞文を載せ、横にメモが書き込めるようになっているワークノートを使いながら自分の書いた鑑賞文と比較して分析する。  
(分析の視点)

- ・歌の良さを伝えるために、筆者は短歌のどこに着目しているか。
- ・筆者はどのようなことを大切にして鑑賞文を書いているか。

### 【本時の学習活動】

○個人思考→班で交流→全体共有→加筆・修正→次時への課題意識へ

- ・自己の鑑賞文を加筆・修正することで次時の課題意識へつなげる。
- ・自分の鑑賞文と比較し、よりよい鑑賞文にするために必要なことは何か。
- ・優れた鑑賞文を読み、表現の仕方などについて参考にしたい。

時	学習活動	評価規準	評価方法
1	単元の学習活動とめあてを把握し、学習の進捗を確認し、鑑賞文を書くためにこれまでの学びを振り返る。 「新しい短歌のために」正岡子規の短歌の鑑賞文を書く。 (鑑賞文なし)	○主体的に学習に寄り添う態度 ○自分の学びや表現の仕方について理解し、思いや考えを伝え合おうとしている。	ワークノート
2	自分が書いた鑑賞文と筆者の鑑賞文を比較し、ワークノートを活用しながら、筆者の鑑賞文の仕方、筆者の着眼点や表現の工夫、筆者の鑑賞文の書き方や言葉の捉え方について振り返る。	○思考・判断・表現 観点を明確にして短歌や鑑賞文を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えられることができる。 【C(1)エ】	ワークノート
3	「短歌を味わう」の中から、自分のお気に入りの一首を選び、鑑賞を明らかにし、言葉の使い方、言葉の捉え方、筆者の鑑賞文の書き方や言葉の捉え方について振り返る。	○思考・判断・表現 観点を明確にして短歌や鑑賞文を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えられることができる。 【C(1)エ】	ワークノート
4	「新鮮な短歌・賞賛の短歌と鑑賞文の内容を確認する。 ワークノートを活用しながら、筆者の鑑賞文の仕方、言葉の捉え方、筆者の鑑賞文の書き方や言葉の捉え方について振り返る。 班でそれぞれが書いた鑑賞文を交流し、自分の鑑賞文に必要となることを書き込む。	○思考・判断・表現 観点を明確にして短歌や鑑賞文を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えられることができる。 【C(1)エ】	ワークノート
5	「山崎君・後方君の短歌と鑑賞文の内容を確認する。 ワークノートを活用しながら、筆者の鑑賞文の仕方、言葉の捉え方、筆者の鑑賞文の書き方や言葉の捉え方について振り返る。 班でそれぞれが書いた鑑賞文を交流し、自分の鑑賞文を推敲して完成させる。	○思考・判断・表現 観点を明確にして短歌や鑑賞文を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えられることができる。 【C(1)オ】	ワークノート



自分が書いた鑑賞文と筆者の鑑賞文を比較しながら、筆者の言葉への着目の仕方や工夫点について個人で付箋に記入し、班で交流後、全体で共有した。  
共有を基に、自分が取り入れたいことをワークノート(上段参照)に記入し、鑑賞文の加筆・修正に生かす。

## 指導 助言



—講師—

前鎌倉女子大学准教授  
松永 立志 先生

## 協議 共有



### [1]短歌を学習する

短歌を鑑賞したり、解釈したりするということは、31文字に圧縮しているものを元の世界へ解凍していく(想像を広げる)ことである。しかし、物語文などと違い、記述(手掛かり)が少ないため、表現から想像を広げる(解凍する)ということに困難が生じ、鑑賞文を書く際の難しさにもつながっている。

～「めあて」の設定について～

- ①小学校での学びを知り、生徒にどんな「めあて」を持たせれば、短歌の解凍作業に向かえるのかを考える必要がある。
- ②めあてを考える際、「量的なめあて」と「質的なめあて」を設定することが考えられる。例えば、
  - ・量的とは、どれくらいの文字数で解凍していくのか・・・等
  - ・質的とは、プロが見つけた表現をまねて大人びたやり方(表現)で・・・等

などのように設定し、それらの「めあて」を踏まえて書いた鑑賞文を、鑑賞し合い友達と評価し合う。

～「スモールステップ」について～

中学生が書いた鑑賞文をプロの歌人が書いた鑑賞文と比較させる場合、生徒の実態に応じてスモールステップを刻む必要がある。例えば、鑑賞したり解釈したりする際、その作品の世界が表すイメージを導き出すために、歌人の言葉を参考に思いついたことをメモし、そのメモの段階で交流する。また、最初から教科書の鑑賞文を使い、「引用」と「活用」を繰り返すことで、最後に自力で鑑賞文を書くことにつなげていくという方法も考えられる。

### [2]語彙を豊かにする、語感を磨く

～短歌の学習を通して～

生徒に感覚やイメージなどを考えさせる場合、言葉を映像化し、像を結び付けて考えていくと抵抗感は少ない。

例えば、「色や動きはあるのか」「様子はどうか」「表情は・・・」等をイメージ化したり、似たような言葉や近い言葉(例えば「紅」と「赤」、「芽」と「花」、「2尺」と「1尺」)など、表現されている言葉に比較の対象をつくりイメージ化したりすることで語感を広げることができる。

～日々の授業や他教科を通して～

教師が生徒の表現を広げていくことを意識し、一つの言葉について、様々な表現をさせたり、子供の発言をつなげたりすることを積み重ねていくことが大切

### [3]主体的に学習に取り組む～自己調整力～

今後「主体的に学習に取り組む態度」という観点での評価が入ってくる。その時キーワードになるのが「自己調整力」である。

「自己調整力」とは、例えば習得、活用、探究(予習、授業、復習)等といったプロセスについて、学習のPDCAを生徒自身が回していける力や態度ということである。授業では、本時での振り返りが次の授業の「めあて」につながる設定が必要になる。教師から与えられた「共通のめあて」から、生徒一人一人がどのような学びのか等の自分自身の「めあて」を設定することで、自分がどのくらいできたのかなどの手応えを感じられたり、自己の「めあて」の適正さを検討したりなどの振り返りにつながる。

この「自己調整力」ということを踏まえて主体性を考えていく必要がある。

### 参加者の声

- ・既習事項をどうつなげていくのか、導入の段階で生徒に課題意識(困り感)を持たせ、それを「めあて」にどうつなげていくのかということ、他教科にも通じることであり、改めて授業づくりの見通しを立てることの大切さを学びました。
- ・歌人が書いた鑑賞文と自分の鑑賞文を比較させるために必要な手立てについて考えることができました。導入の際、既習の学習をどうつなげて、生徒に課題意識を持たせるかということについても考えることができました。
- ・短歌の学習について、どのように学習させていけばいいのかヒントをいただくことができました。短歌を映像化することで、鑑賞文を書かせる手立てを取っていきたいと思います。

### ～授業者より～

本時では、自分事の課題を意識させ、筆者と自分の鑑賞文を比較して「自分の表現に生かしたい」という「めあて」につなげたかった。しかし、生徒との対話から「めあて」を引き出し、設定することが上手くいかなかった。

また、生徒が着目した言葉について、その考えを深く聞くことができなかった。もっと掘り下げていくことで表現の仕方や工夫につなげられたのではないかな。

### ～協議・共有より～

- ・「書けない」ことを実感させて課題意識を持たせようとしたねらいや工夫は感じられた。
- ・生徒のスタートに差があったため、導入で生徒に「どんなことが分かれば書けるのか」についてを問いかけていけば、スムーズに課題意識を持たせることができたのではないかな。
- ・ワークノートでの実践を踏まえ、学んだことを自分の鑑賞文にすぐに生かそうとする単元の流れはよかった。
- ・短歌と鑑賞文の両方を扱う際には、短歌を味わう時間をもっと取ったり、内容の理解を進めたりした上で鑑賞文へつなげることが大事ではないかな。
- ・「めあて」でも比較のポイントになっているが、筆者の工夫等は見つけていたが、自分の鑑賞文との比較という点は弱かった。
- ・生徒の発言を通して「比較する」ということを意識させることができると思うので、生徒に発言させその発言をつなぐための手立てが必要であった。



### 今後の予定

～これからの授業づくり講座～

9月25日(木) 黒潮町立大方中学校【教材研究会】

◇1年「説明文(教材は検討中)」研究協議等

・松永先生による指導・助言

11月6日(水) 黒潮町立大方中学校【授業研究会】

◇公開授業・研究協議・松永先生による指導・助言